

令和2年度 学校評価報告書

園名	小野幼稚園
----	-------

1 教育目標

<ul style="list-style-type: none"> よく考え、やりぬく子ども みんなとなかよくあそぶ子ども 心豊かな子ども

2 今年度の重点目標

<p>自ら考え、主体的に活動する子の育成</p> <p>～自ら学ぼうとする姿、人とかかわろうとする姿を支える援助のあり方を探る～</p>
--

3 総合的な自己評価

<ul style="list-style-type: none"> 教師の援助とその意図、幼児の姿とその変容などを、日々の保育の中で振り返りながら、子どもたちの中に育ちつつある力を職員間で確認し合うようにしてきた。こうして客観的に保育を振り返ることにより、幼児理解が深まり次の援助に確実に繋がっていった。 4・5歳児混合保育実施園と合同研究に取り組み、混合保育のあゆみを振り返る機会をもつことができた。混合保育だからこそ育つもの、そして少人数であるがゆえの課題を踏まえた上で、援助のあり方を探ることができた。これを元に、幼児一人一人の生きていく力を大切に育んでいきたい。 この一年は新型コロナウイルス感染防止に努めながらの園運営となった。その中で「今必要な体験は何か」「どのように工夫すれば体験できるのか」「活動に必要な援助は何か」を一つ一つこだわって考えることができた。
--

4 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 行事に参加することはできなかったが、様々な資料や配布物から、幼稚園のねらい、幼児の成長を実感することができた。日々の援助の中で子どもたちが育ってきているのを感じる。 地域の拠点としての幼稚園が、子育て支援の充実を図っていることは素晴らしい。地域としても、どのようなことができるのか一緒に考えていけたらと思っている。地域の方からも、幼稚園小学校へと足を運ぶ機会を増やし、働きかけていくことができればと思う。 感染症予防のため様々な教育活動に制限があるのは仕方がないとはいえ、地域としても残念である。今年度、工夫して取り組んできた実績を振り返りながら、次年度、出来る範囲で工夫して子どもたちにとって学びのある教育活動を創ってほしい。
--

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	<p>学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 4・5歳児混合保育の中で、幼児が自ら考え、手段を選び、目的をもって遊び込むための援助や環境構成の工夫ができているか。 一人一人の育ちや課題、集団としての育ちや課題を職員が共通理解し、連携しあって保育を工夫することができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが心を動かし、目的をもって挑戦する姿を見守りながら、一人一人の頑張りをタイミングよく認め、自信をもって取り組めるようにしてきた。 幼児が考え、感じていることを自分の言葉で伝えることができるよう十分な時間を確保してきた。たとえうまくいなくても、思いを伝えようとする大切さ、聴き取ろうとする姿勢の大切さを感じられるよう、時に言葉を補足しながら支えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の姿、教師の援助とその意図などを教師間で話し合い、幼児の心の動き、学びや育ちの姿を丁寧に捉えていく。そしてそれを日々の保育に活かしていく。 人とかかわりの中で上手いかないことがあっても、「どう言えばよかったのか」「どうすれば伝わるのか」自分なりに考える機会を大切に、「伝えることで何とかなった」「分かってもらえた」体験ができるように支えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の頑張りが、日常生活の様々な場面で生かされていくよう、陰ながら支えていってほしい。 現代社会の課題、農村地域の課題を抱える中で、自分の思いを相手に伝える力、発信していく力をつけていってほしいと願う。少しずついいので、伝えようとする意欲とその力を育んでほしい。
	<p>健やかな体や心を育む取り組みの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内外の環境を活かし、様々な直接体験をできる工夫をしているか。 心弾ませ、のびのびと体を動かすことにより、健やかな心と体を育むことができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然豊富な園庭や遊戯室などのスペースを存分に使って、体を動かす面白さや楽しさを実感できる活動を工夫してきた。 体の様々な部位を動かす、押す、引く、投げる、跳ぶ…などの動きを、遊びながら体験できるよう心掛けてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> マスクを着用している時には体調管理に留意しながら、存分に体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 特定の動きに留まることなく、様々な動きを体験できるよう、活動内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取り組みこそ、力になっていくと感じる。出来なかったことができるようになった喜びを感じながら心と体を鍛え、育てていってほしいと願う。
子育て支援	<p>親と子の育ちの場としての役割や機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に住む子ども同士、親子、親同士が交流できる場の設定、隣接する校区や市内の親子が交流できる行事等を計画的に実施することができているか。 子育ての不安を解消し、親もも元気に過ごしていけるようにしているか。地域とのネットワークづくりをすすめられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 園庭開放、未就園児と遊ぶだけでは、地域内の幼児数の減少により、地域からの参加者は年々減っている。今年度は新型コロナウイルス感染症予防による自粛傾向からか、地域外からの参加者は見られなかった。 日々、保護者からの子育てに関する相談事について聴き取り、一緒に考える機会をもつようにしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防に努めながら、保護者同士、教師と保護者が気軽に様々な話をする中で気持ちを楽しんだり、子ども同士がふれあったりできる場を保障していく。 保護者の悩みに寄り添いながら、園での様子や具体的な援助の内容、成長の様子を伝え、かかわり方を一緒に考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに悩み、一人で抱え込むことなく、みんなで地域の子育て世代の支援をしていければと思っている。コロナ禍では出来ることは多くないが、その中でも出来ることを探して、地域も一緒になって考えていきたい。
	<p>子育て支援型預かり保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育内容を工夫し、保育の充実を図ることができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で連携を図り、安心して預かり保育が利用できるよう工夫してきた。利用人数の少ない曜日もあるが、ゆったりと家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう保育内容を工夫してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度、預かり保育日が1日増える。家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごすことができるよう、園職員、預かり指導員が連絡を密にしながら運営していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育を利用することで、親は安心して過ごされている。子どもも慣れ親しんだ場所で慣れた先生と穏やかな雰囲気のもと、安心して過ごすことができていると思う。
学校園所連携	<p>学校園所連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校区の幼・小・中の交流・連携の充実を図ることができているか。 保幼・小接続カリキュラムを軸に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を幼稚園と小学校が共有し、幼小の円滑な接続をめざして交流、連携を推進することができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は制限のある中で、従来通りの交流は難しかったが、手紙や Web などを用いて、思いを伝え合う場を工夫してきた。 感染の減少していた秋に、予防に努めながら近隣園と連続した交流を行なった。普段の交流では見られない姿が互いに見られ、一人一人の幼児理解を深めることができた。 保育の中での幼児の様子、授業の中での児童の様子を見合うことで、学びや育ちの連続性を意識することができた。 幼児同士の交流は、なかなかできなかったが、教師を介して飼育物のことやそれぞれの活動のこと、幼児の興味関心の様子などを伝え合う機会をもつように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 従来の形にこだわることなく、「今、何が必要か」「どんな形ならできるのか」を考え合い、小学校、地域の方々、近隣園、中学校と実のある交流をしていく。 園内の活動を大切にしながらも、継続して園外の人たちと様々な方法で交流できるよう工夫し、人とかかわりの中で学ぶ機会を保障していく。 “保育の中で何を大切にしているのか”が揺らがないよう、常に幼小中職員で話し合い、保育観、教育観を伝え合う時間を大切にしていく。 幼児同士が直接ふれ合って交流することができない時でも、どのように心をつないでいくのか、教師間で話し合いながら保育内容、交流手段を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も職員間の連携を密にとりながら、子どもたちのために、互恵性のある温かい交流活動を続けていってほしい。 小規模園、小規模小中学校ならではの交流活動を継続し、互いの信頼関係を今後も深めていってほしい。 職員間の話し合いは、とても大切だと思う。そこで互いの思いを擦り合わせて、よりよい教育保育を創り出してほしい。 制限のある中で工夫して取り組んでいる様子が窺える。一つのことにとらわれることなく、自由な発想で、子どもたちにとっていい環境をつくってほしい。
	<p>園運営、園行事への保護者や地域住民の参画の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民に幼稚園教育への理解と関心を図り、連携や交流を推進することができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度途中(6月)より、地域に向けて園だよりを配布するようにした。「読みましたよ」「様子が分かって嬉しかった」と感想をいただき、関心をもってくださっている様子が窺えた。 地域の方々の協力により、野菜の栽培や、昔からの生活の知恵、地域の素晴らしさなど教わるすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、園だよりや直接的な対話を通して、4・5歳児混合保育の中での幼児の学びや育ちについて積極的に伝えていきたい。 地域の方々の知恵をお借りしながら、幼児期に体験させていきたいことを実現していけるよう計画していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と幼稚園の結びつきの強さを生かして、子どもたちに様々なことを体験させていってほしい。 小規模園だからこそできること、小規模園にしかできないことを大切にしながら、この幼児期に貴重な体験ができるようにしていってほしい。
保護者・地域住民との連携	<p>園運営、園行事への保護者や地域住民の参画の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民に幼稚園教育への理解と関心を図り、連携や交流を推進することができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度途中(6月)より、地域に向けて園だよりを配布するようにした。「読みましたよ」「様子が分かって嬉しかった」と感想をいただき、関心をもってくださっている様子が窺えた。 地域の方々の協力により、野菜の栽培や、昔からの生活の知恵、地域の素晴らしさなど教わるすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、園だよりや直接的な対話を通して、4・5歳児混合保育の中での幼児の学びや育ちについて積極的に伝えていきたい。 地域の方々の知恵をお借りしながら、幼児期に体験させていきたいことを実現していけるよう計画していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と幼稚園の結びつきの強さを生かして、子どもたちに様々なことを体験させていってほしい。 小規模園だからこそできること、小規模園にしかできないことを大切にしながら、この幼児期に貴重な体験ができるようにしていってほしい。